

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 2 部門第 5 区分
【発行日】平成21年7月9日(2009.7.9)

【公開番号】特開2008-24101(P2008-24101A)
【公開日】平成20年2月7日(2008.2.7)
【年通号数】公開・登録公報2008-005
【出願番号】特願2006-197300(P2006-197300)
【国際特許分類】

B 6 2 J 99/00 (2009.01)

F 0 2 M 35/16 (2006.01)

【F I】

B 6 2 J 39/00 L

F 0 2 M 35/16 L

B 6 2 J 39/00 G

【手続補正書】

【提出日】平成21年5月21日(2009.5.21)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 3】

またドリブンプーリ 4 0 は、相対回転を可能として出力軸 4 2 を同軸に圍繞する内筒 4 7 と、軸線まわりの相対回転ならびに軸線方向の相対移動を可能として内筒 4 7 を摺動可能に嵌合せしめる外筒 4 8 と、内筒 4 7 に固定される固定プーリ半体 4 9 と、該固定プーリ半体 4 9 に対向して外筒 4 8 に固定される可動プーリ半体 5 0 と、該可動プーリ半体 5 0 および固定プーリ半体 4 9 間の相対回転位相差に応じて両プーリ半体 4 9, 5 0 間に軸方向の分力を作用せしめるようにして内筒 4 7 および外筒 4 8 間に設けられるトルクカム機構 5 1 と、可動プーリ半体 5 0 を固定プーリ半体 4 9 側に向けて弾発付勢するコイルスプリング 5 2 とを備え、固定プーリ半体 4 9 および可動プーリ半体 5 0 間に V ベルト 4 1 が巻き掛けられる。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 4】

ドリブンプーリ 4 0 の内筒 4 7 および出力軸 4 2 間には、エンジン回転数が設定回転数を超えるのに伴って動力伝達状態となる遠心クラッチ 5 3 が設けられ、この遠心クラッチ 5 3 の一部を構成して前記内筒 4 7 に同軸にかつ相対回転不能に結合されるドライブプレート 5 4 と、前記可動プーリ半体 5 0 との間に、前記外筒 4 8 を圍繞するコイルスプリング 5 2 が縮設される。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 5】

而してドリブンプーリ 4 0 における固定プーリ半体 4 9 および可動プーリ半体 5 0 間の間隔は、前記トルクカム機構 5 1 によって生じる軸方向の力と、コイルスプリング 5 2 によって生じる軸方向の弾性力と、固定プーリ半体 4 9 および可動プーリ半体 5 0 間の間隔をあける方向に作用する V ベルト 4 1 からの力とのバランスにより決定され、ドライブプーリ 3 9 において可動プーリ半体 4 4 を固定プーリ半体 4 3 に近接させることにより V ベルト 4 1 のドライブプーリ 3 9 への巻き掛け半径が大きくなると、V ベルト 4 1 のドリブンプーリ 4 5 への巻き掛け半径が小さくなる。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 2】

さらに外気導入ダクト 8 6 の未浄化室 9 9 内には、冷却空気導入口 8 2 および伝動ケース用空気取り入れ口 1 0 6 間に位置する対向壁部 1 0 8 が、伝動ケース用空気取り入れ口 1 0 6 に後方から対向するようにして配置され、この対向壁部 1 0 8 も蓋板 8 8 の内面に一体に突設される。